

六甲山で繁殖する夏鳥
(キビタキ)

第38回テーマ： 鳥の渡りと六甲山での 鳥類標識調査

講演内容

- ①六甲山と渡り鳥
- ②鳥類標識調査について
- ③鳥の渡りのふしぎ

実施日：平成18年5月20日(土)
午後1時～3時45分
場 所：六甲山自然保護センター内
レクチャールーム



講師：山根 みどりさん

プロフィール

1979年神戸市外国語大学卒業。経済・金融関連の翻訳と環境アセスメント会社の鳥類調査員をしている。1992年より、(財)山階鳥類研究所標識研究室の協力調査員として活動。

新たなスタートラインに立つ

午前中は総会を行いました。活動5期目となり、設立期を終えて構築期に入りました。本格的に活動が進み出しています。会員主導型の活動を展開し、六甲山をみんなで盛り上げようと呼びかけました。午後からの市民セミナーには、30名の熱心な参加者が集まりました。

山根さんはボランティアバンダー

講師の山根みどりさんは鳥類標識調査員(バンダー)で、現在六甲山上にある「六甲山YMCA」の敷地内において、ボランティアで調査活動をされています。鳥類標識調査とは、1羽1羽の鳥が区別できる記号や番号がついた標識(足環)を鳥につけて放し、鳥の移動や寿命について正確な知識を得る調査をいいます。

スライドを用いて、六甲山で繁殖するオオルリ、キビタキ、カヤクグリなど、鳥の渡りについての調査データを解説していただきました。山根さんの気さくなお人柄には親近感がわきました。初心者にもわかりやすくお話いただき、野鳥への関心を高めました。



熱心な参加者が集まる

主催：六甲山自然保護センターを活用する会
協力：兵庫県立人と自然の博物館
後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

渡り鳥の謎に興味津々

鳥の渡りには、まだ多くの謎があり、繁殖地や越冬地がどこかわからない鳥がたくさんいるそうです。調査によって六甲山上を渡る鳥の種類が徐々に明らかになっています。意外な調査結果には驚きも多く、参加者の質疑応答も活発でした。

六甲山上を向いて歩こう

今回のお話で専門的な鳥の調査が六甲山で行われていることを知りました。散策道で空を見上げて鳥の様子を観察する楽しみが増えました。

六甲山は渡り鳥にとって重要な場所であり、人にとっても重要な環境です。六甲山のあり方についてじっくり考えていきたいと思えます。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 溝淵 正昭さん

定点での長期にわたる鳥類標識調査が様々な事実を示す事に感心しました。種類により渡りの期間・ピーク等が異なる、渡りの時季も環境の変化などに微妙に影響を受け変化する事など。また、シジュウカラガンを再び日本の冬鳥として復活する活動なども興味深い話でした。

自分もバードウォッチング案内、野鳥のブローチやストラップ作り、また六甲山自然保護センター周辺での定例植物観察会などの活動をしています。今回のお話を活用させて頂きたいと思えます。

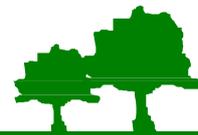


【助成金をいただいている機関】

(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)、コベルコ環境保全基金
公益信託自然保護ボランティアファンド
ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金



第38回テーマ：鳥の渡りと六甲山での鳥類標識調査



第38回市民セミナーの流れ

市民セミナー

- 1. あいさつ：13:05～13:15
- 2. 講演：13:15～14:40
- 3. 質疑応答：14:50～15:15
- 4. 交流会：15:15～15:50

講演

- ①六甲山と渡り鳥
- ②鳥の渡りのふしぎ
- ③失われた渡りを復活するプロジェクト



環境省の金属リング（調査で鳥の右足につける）

講演の挨拶(山根 みどりさん)

六甲山や、大阪府の能勢でボランティアで鳥の標識調査をしています。今日は日本での鳥の調査がどのように行われているかなど、鳥の渡りのふしぎについてお話ししたいと思います。



山根 みどりさん

講演内容

1. 六甲山と渡り鳥

■六甲山では日本の鳥の半分が見られる

鳥類は世界に8500～9000種いるといわれている。日本で1年間に確認されるのは600種ぐらいで、六甲山ではその半分の300種が確認できる。六甲山は緑が豊かで、都市に近いという多様な環境であるため、多くの鳥が見られる。

●春と秋に六甲山を通過する鳥：ノゴマ、ムギマキなど。

●六甲山で繁殖する鳥：ヤブサメ、コシアカツバメ、ホトトギス、オオルリなど。

■六甲山は渡り鳥にとって重要な場所

六甲山には多くの渡り鳥がやってくるので、標識調査が行われている。小畑義之氏が極楽茶屋で毎年秋に実施した調査によると、約70種の鳥が確認された。渡りの傾向もわかってきた。

オオルリ：オスは真っ青できれいな鳥。メスは全身茶褐色。六甲山では多数繁殖していて、8月下旬から渡りが始まり、9月下旬にピークを迎える。

ルリビタキ：青いきれいな鳥。秋に平地や南方の暖地へ渡る。渡りの時期は10月下旬～12月上旬。最盛期の11月には大挙して押し寄せ、調査中に何百羽も捕れることがあり、研究者の間では「ルリビ爆弾が来た」と言う。



ルリビタキ



オオルリ

2. 鳥の渡りのふしぎ

■渡りの調査

鳥の渡りにはまだ多くの謎があって、繁殖地や越冬地がどこかわからない鳥がたくさんいる。鳥の渡りの調査には、私が六甲山で行っている標識調査以外にも、定点観察（バードウォッチング）や、レーザー調査、衛星調査などがある。衛星調査は最先端の調査方法で、鳥の背中に発信機をつけて離し、衛星を使って追跡する。リアルタイムで居場所がわかるので、移動経路、休息場所、繁殖地を突き止められる。このような情報は保護対策に不可欠。

■グローバルな鳥の渡り

衛星追跡で、鳥の渡りが地球規模で行われていることがわかってきた。

マナヅル：鹿児島県からロシアや中国へ飛んでいく。途中、朝鮮半島の38度線の非武装地帯で休息することが分かった。

サシバ：新潟県と南西諸島間を2700km移動。

ハチクマ：安曇野～インドネシアのジャワ島へ87日間かけて1万km以上移動した。



ハチクマの渡りの経路 (樋口広芳)

■渡りの疑問

鳥の渡りには不思議がいっぱい。

①なぜ渡る？

北方では春に大量の虫が発生する。その大量の食糧で子育てをするためだと考えられている。

②どのように渡りの時期を知るのか？

体内のホルモンが関係していると言われる。

③どのように飛ぶ方向・ルートを知るのか？

夜渡る鳥は、星座を見ていることがプラネタリウムの実験で証明されている。昼渡る鳥は地形や太陽光で方向を知る。

④渡りのエネルギーはどこからくるのか？

渡りの前には脂肪を十分に蓄え、羽根を生え変わらせて準備を整える。中継地の存在や状況が重要。

3. 失われた渡りを復活するプロジェクト

日本に1930年代まで飛来していた中部千島のシジュウカラガンの個体群は、繁殖地にキツネが放獣されたため、絶滅してしまいました。1983年に日・露・米の共同プロジェクトで渡りを復活させようというプロジェクトがスタートした。

■ポイントはガン類のヒナの習性

1. 卵からふ化したヒナは、最初に見たものを自分の親と思込む(「刷り込み」)。
2. 渡りは本能でなく、学習によって学ぶ。
3. 初めて飛ぶことを覚えた所を故郷と思込む。
4. 同じ巣から生まれたヒナを見て、種を認識する(親の種は関係ない)。

■渡りの復活へのステップ

- ①カムチャツカ半島南部で繁殖しているヒシクイの巣にある卵を全部、飼育されていたシジュウカラガンの卵と入れ替え、仮親家族を作る。
- ②仮親家族を千島列島に運んで、放鳥する。シジュウカラガンはここで飛ぶことを覚え、千島列島を故郷だと認識する。
- ③仮親につれられてシジュウカラガンの子は日本へ渡り春になると再び家族で北へ渡る。こうして一往復の渡りを経験、学習する。
- ④親は本来の繁殖地(カムチャツカ)へ戻ってまた巣作りする。子は親離れ後、自力で故郷へ戻る。これで千島列島と日本を自力で往復できるようになる。



シジュウカラガン(池内俊雄:1997)

鳥の密猟を見かけたら110番!

かすみ網の使用は法律で禁止されています。調査の場合は、赤い旗を立てられています。旗がない場合は密猟です。危害を受ける場合もありますので、注意や質問をしたりせずに110番をしてください。六甲山の警察は手馴れています。

質疑応答

空を飛ぶ鳥と地上を歩く動物、海の魚は進化の程度ではどれが進んでいるのか。:あまり詳しくはないが、海から陸、陸から空へという進化の順序から考えると、空を飛ぶというのは相当な進化だと思う。鳥の群れにはリーダーがいるのか:聞いたことがない。シギなどは大勢で飛んでいるが、リーダーはいないと思う。

標識調査をしている人はどれぐらいいるのか。:日本では資格をとっている人が400名前後いる。

風力発電が問題になっているという話を聞いたが。:風力発電は必ずしも環境にやさしい訳ではない。風が強いところは鳥も利用するところで、鳥が風車の羽根にぶつかって死んでしまう「バードストライク」により、生態系が破壊されるという問題がある。

まとめ(山根さん)

渡りの時期が近づくと、鳥は落ち着きがなくなります。その年に生まれた幼鳥も飛ぶ練習をし、緊張感が伝わってきます。バードウォッチングで種類を見るのも面白いですが、渡りを意識して鳥を見ると、いっそう鳥に親しめます。

事務局より

慣れ親しんだ六甲山が、地球規模で展開される鳥の渡りに重要なポイントとは大変驚きました。



青空をバックに記念撮影

◆参考・配布資料など

- ・レジュメ、スライド
- ・『渡り鳥と足環』環境省
- ・『密猟対策マニュアル』
全国野鳥密猟対策連絡会



マヒワ

※山根さんへの質問は、当会事務局までお願いします。
(TEL: 078-856-4756)

足環のついた鳥を見つけたら下記へ連絡してください。

山階鳥類研究所 標識研究室
〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115
TEL: 04-7182-1107 FAX: 04-7182-4342

◆参加者の声～アンケートより～

- ・疑問であったことを丁寧に教えていただいた。
- ・次回は、調査の様子を見学したい。
- ・身近なところで調査が行われている事実を知った。
- ・図表解説が非常にわかりやすかった。

◆参加者: 30名(順不同・敬称略)

山根みどり	村上 定広	浅井 審一	泉 美代子
武野 真也	久保 紘一	田路 弘	中垣内 博
鎌田 道子	上田 厚子	松下 猛	小坂 忠之
香西 直樹	石田 澄子	青木 孝子	都倉 知子
高橋 晃	柴田 正生	八木 浄	高光 正明
北山健一郎	溝渕 正昭	石村 郁子	大家 武司
中塚 順子	堂馬 英二	桑田 結	米村 邦稔
葛蒲 美枝	堂馬 佑太		